



シラバス

令和 8 年度 (2026 年度)

1 年次 履修科目

指定保育士養成施設 こども學舎

シラバス目次

保育原理	1	保育内容演習（人間関係）	28
教育原理	3	保育内容演習（表現）	29
子ども家庭福祉	5	保育内容演習（環境）	30
社会福祉	7	保育内容の理解と方法（音楽表現）	31
子ども家庭支援論	9	保育内容の理解と方法（身体表現）	32
社会的養護 I A	11	保育内容の理解と方法（造形表現）	33
保育者論 A	12	子どもの健康と安全	34
保育の心理学	13	障害児保育	35
子どもの保健	15	保育実習指導 I A	37
保育の計画と評価 A	17	保育のピアノ A	38
乳児保育 I	18	情報処理	39
保育のシゴト A	20	ファシリテーション	40
保育のシゴト B	21	児童文学	41
文章表現	22	リトミック	42
子どもの理解と援助	23	保育所保育指針	43
子どもの食と栄養	24	こどものあそび	44
保育内容総論	26	保育 ICT	45
保育内容演習（ことば）	27	特別支援教育	46

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育原理			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
・ 保育原理を学ぶ意味（保育の歴史・保育の制度・保育内容・保育方法等）を知る。 ・ 保育をより深く、的確に把握する。 ・ 保育の意味をより深く捉える。					
(学習目標)					
① 保育の意義及び目的について理解する。 ② 保育に関する法令及び制度を理解する。 ③ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ④ 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ⑤ 保育の現状と課題について理解する。					
評価方法・基準					
授業態度（30％＝1％×30回）＋レポート（20％＝10％×2回）＋試験（50％）で評価					
履修上の注意点					
特になし					
教科書					
アクティベート保育学 保育原理：ミネルヴァ書房					
参考書					
幼稚園真諦：フレーベル館 倉橋惣三著 さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか ～2017 年告示 新指針・要領からのメッセージ～：小学館 汐見稔幸著 光ほのかなれども～二葉保育園と徳永恕：現代教養文庫 上笠一郎・山崎朋子著					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 「学び」と倉橋惣三の四層構造
2回	保育とは
3回	子ども主体の保育へ
4回	制度としての保育
5回	保育に関する法律
6回	保育に関する制度
7回	子ども理解とは
8回	子ども理解と保育者の専門性
9回	子ども理解と保育者の資質向上
10回	保育の歴史①
11回	保育の歴史②
12回	保育の歴史③ 【レポート①】
13回	健康と安全を考える①
14回	健康と安全を考える② 保育の方法①
15回	保育の方法②

	授 業 内 容
16回	保育と子育て支援①
17回	保育と子育て支援②
18回	保育と子育て支援③
19回	保育の内容について①
20回	保育内容について② 保育の計画と評価①
21回	保育の計画と評価② 【レポート②】
22回	多様性について①
23回	多様性について②
24回	地域連携・幼保小連携
25回	これからの保育の課題と展望①
26回	これからの保育の課題と展望②
27回	これからの保育の課題と展望③
28回	振り返り①
29回	振り返り②
30回	総まとめ・テスト

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
教育原理		2単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
1) 保育士資格を取得するにあたって「教育原理」をなぜ学ぶのか、教育原理とはどのような学問かについて概括的に学習します。 2) 我が国における教育内容や制度の歴史的変遷について学習します。 3) 諸外国の教育制度や教育の発展に寄与した教育学者の教育理念・思想について学習します。 4) 幼児教育を中心に児童福祉法、学校教育法及び、教育基本法について理解を深める。 5) 教育に関する権利、教育委員会、義務教育を規定する法律や教育基本法および、教育を規定する法律・学校教育法、施行規則等について学習を深める					
(学習目標)					
◎30回の各学習内容に伴う用語（学術用語）を正確に修得（理解）することを期待します ◎学習内容を理解し、正しく伝える（自分の意見を正確に発信）ことが出来る能力を習得することが学習成果の目標です。（自分の考え方を誠実に伝える能力を培う） ◎自己の「学び方を学ぶ」姿勢を確立することが重要です。 ◎課題の発見と解決の方法を考え、具体的解決に導く能力を培うことを目指す					
評価方法・基準					
1. 配布資料の精読と自己研鑽 2. 筆記試験（90％）評価基準は別途お知らせします。 3. 受講態度（10％）・出欠席数・授業に対する取り組みの意欲と姿勢（受講に直接必要のない行為・行動）					
履修上の注意点					
＊私語、及び遅刻は受講環境（学習環境）の破壊につながります。 ＊授業時数（出席に日数）の確保してください。 ＊学習の準備を十分に行うこと。（Readiness） ＊授業中、電子機器類は指示があるまで収納してください。 （授業中は補水以外の飲食は不可）					
教科書に代わり、オリジナル配布小冊子を使用します					
使用しない（配布プリントを使用します）					
参考書は必要に応じて紹介します。「補足資料集」使用					
必要に応じて適宜、紹介します					

授 業 内 容	
1回	「教育原理」の準備段階としてのguidance 及びorientation 「教育原理」科目の目的、目標を正確に理解して、30時間の授業を展望する
2回	「教育原理」という科目で学ぶことは何か？について考える。 また、日本における「教育」は何によって保障、及び守られているのか。 憲法を中心に考える。
3回	「教育」とは何か？ について様々な方向から考える また、人間形成と教育について理解を深める。
4回	人間形成と教育についての要因および、遺伝・素質と環境について探究する。 また、 幼稚園と保育所における教育および保育の概要について理解する
5回	教育と児童福祉を理解する。児童福祉法の理念を理解する。また、さまざまな児童福祉施設についても理解を深め、保育士との関連を深く、広く理解することを学習の課題とします。
6回	子育て支援の現状について考えてみましょう。 少子化対策と各省庁の連携、子ども・子育て支援制度、幼保連携型認定こども園
7回	世界で初めての「絵本」とは？ コメニウスと近代教育について考えてみましょう
8回	なぜ、フレーベルを学ぶのか？ また、フレーベルの幼児教育が現代の保育とどのように関連づけられているかについて考える。
9回	ルソーとペスタロッチの教育思想が現代教育との関連について考えてみよう。 また、二人の著作の代表的なものについて考えてみましょう
10回	諸外国における教育の発展について概観する フランス、ドイツ、イギリスの教育についてその特徴を比較しながら考える
11回	諸外国における幼児教育の諸事情について概観的に理解する。 アメリカ、イギリス、スウェーデン、ニュージーランド、韓国について概観する。
12回	日本の幼稚園教育の始まりと戦後の社会の変化と幼児教育について学習する 幼児教育に関連の人物についてその人が与えた影響や成果を学ぶ
13回	幼児教育に関連の人物について知る。 日本の幼稚園教育始まりと戦後の社会の変化と幼児教育について学習する
14回	J., Condorcet, N Herbart, J.F., J Mill, J.S, Key, E, の教育思想を概観する
15回	最近の「教育」に関するテーマを表出して課題を書き出してみる 自分の意見を発信できる習慣を再度確認する ＊新聞記事を教材にして、教育無償化教育の機会均等を考える

	授 業 内 容
16回	教育制度の原型について考えてみましょう 基本的学問・教育の体系化とはどのようなものかについて学ぶ
17回	日本の教育制度の起源について理解する また、教育委員会組織や義務教育について理解を深める。
18回	教育格差の問題点を広い角度から考えその問題解決の糸口を探る学習をする。 各論として専門保育施設や保育者格差について学習を深める。
19回	教育を規定する様々な法律について学習をする。また、これらの法律の内容に関連について深く理解して国民生活と教育法規の現実を考えることとします。 —教育基本法や学校教育法、施行規則等—
20回	安全・安全を保障する学校経営と学校評価に関する「学校評価ガイドライン」について学習を深める。同時に学習評価の方法についても考える。 学校選抜法についても認識を深めます。
21回	諸外国の教育制度について日本と比較しながら認識を深める。特に図を参照しながら年齢、学年、教育制度の段階について考えることにします。
22回	教育の実践について、基本となる「教育課程」について、用語とその内容について認識を深める。特に「カリキュラム」について種類と内容について理解する。
23回	日本の保育内容—領域、生活づくり、遊びと学習、— 保育の形態について学習を高める。
24回	保育の実践の中で教育の目標や実践方法について特徴がある。 モンテッソーリ、シュタイナーについて既学習を基により一層学習を深める。
25回	教育の分類として、大きくは家庭教育、学校教育、社会教育等があるが、生涯全体を通して「生涯学習」ということについて学習する。基本概念、基礎理論、—について学習を高める。
26回	現代教育の課題について網羅的に学習をする。 —理数教育の推進、グローバル人材育成、キャリア教育・・・—
27回	生涯における健康な社会生活のための幼児期～高齢期までの健康づくりについて問題点や実践可能な解決の端緒となる事柄を考える。
28回	日本の教育政策について確認する —教育振興基本計画、幼児教育の推進や質的向上— について理解を深める
29回	保育士の健康維持のための運動（腰痛予防）
30回	1－30時間の総まとめ学習 総合的評価：筆記試験をもって最終試験の評価とします。

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子ども家庭福祉			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
子どもと子育て家庭の現状や課題及び子どもを取り巻く社会環境の変化に目を向け、歴史的変遷や子どもの人権、法制度や支援システムについて理解し、今後の動向や展望を考察する。子ども家庭福祉を担う専門職として、家庭の養育機能低下の背景を考え、子どもの最善の利益の保障と健やかな生活ができる社会について事例を交えながら理解を深めていく。					
(学習目標)					
1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。					
評価方法・基準					
授業出席・参加態度・・・・・・・・・・10％ コメントシート・・・・・・・・・・10％ 単位認定試験・・・・・・・・・・80％					
履修上の注意点					
子どもとその家庭の福祉を担う一員として、子どもに関わる報道に注視しておく。					
教科書					
児童育成協会（監修）、新保幸男・小林理（編集） 「子ども家庭福祉」第2版(2023) 中央法規					
参考書					
適宜、講義の中で紹介する。					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 子ども家庭福祉の学び方と授業の進め方
2回	子ども家庭福祉の理念と概念（1） ・子ども家庭福祉を理解するための方法及び子ども家庭福祉の基本構造
3回	子ども家庭福祉の理念と概念（2） ・児童という対象の特徴と児童の最善の利益の実現
4回	子どもの家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向（1） ・子ども家庭福祉の歴史的展開と社会的支援
5回	子どもの家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向（2） ・支援対象の多様化と新たな貧困への対応
6回	子どもの人権擁護（1） ・子どもの人権擁護の歴史と保育所保育指針にみる子どもの権利
7回	子どもの人権擁護（2） ・子どもの人権擁護と現代社会における課題と保育の専門職
8回	子ども家庭福祉の制度と実施体制（1） ・子ども家庭福祉の法制度と行財政と実施機関
9回	子ども家庭福祉の制度と実施体制（2） ・法制定・改正の流れとポイント及び子ども家庭福祉における実施体制と専門職
10回	子ども家庭福祉の施設と専門職（1） ・児童福祉施設の種類と保育所の位置づけ及び児童福祉施設の設置・運営
11回	子ども家庭福祉の施設と専門職（2） ・子ども福祉施設の専門職及び保育士の役割と児童福祉施設入所のしくみ
12回	少子化と地域子育て支援（1） ・少子高齢社会の到来と少子化対策の動向及び子育て支援
13回	少子化と地域子育て支援（2） ・子育て支援制度の概要と子育て支援の拡充
14回	母子保健と子どもの健全育成（1） ・母子保健の意義とわが国の歩み及び母子保健施策の概要
15回	母子保健と子どもの健全育成（2） ・児童健全育成の意義と概要及び母子保健サービスの動向

	授 業 内 容
16回	多様な保育ニーズへの対応（１） ・多様な保育ニーズに対応するためのしくみと教育・保育施設
17回	多様な保育ニーズへの対応（２） ・障がい児支援の現状と保育所における障がい児の受け入れ状況
18回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止（１） ・子ども虐待の定義と概要及びドメスティックバイオレンスと子ども虐待の関連
19回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止（２） ・子ども虐待防止とDV 防止
20回	貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応（１） ・子育て世帯の貧困及び外国籍の子どもとその家庭の実情や支援
21回	貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応（２） ・子どもの貧困対策とひとり親家庭の支援及び保育所の役割
22回	社会的養護（１） ・社会的養護の概念と施設
23回	社会的養護（２） ・社会的養護の課題と将来像
24回	障がいのある子どもへの対応（１） ・障がい児の福祉と障がい児支援の経過
25回	障がいのある子どもへの対応（２） ・障がい児支援の背景とポイント及びチームアプローチモデル
26回	少年非行等への対応 ・少年非行の状況と背景及び非行相談と施設入所
27回	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 ・次世代育成支援としての子ども家庭福祉及び認定こども園と幼保連携
28回	地域における連携・協働とネットワーク（１） ・連携・協働の必要性和目的・場面及びネットワーク
29回	地域における連携・協働とネットワーク（２） ・保育の実践場面における連携・協働
30回	単位認定試験

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
社会福祉		2単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
社会福祉は社会的要因の影響を受けて発生した、社会生活上の諸問題に対応する、専門的な社会サービスの体系を意味している。社会生活上の諸問題には、格差、貧困、社会的不平等、保育や介護などの多くの生活問題が含まれる。本講義では、消費者（利用者）の立場から社会福祉の身近な事例を取り上げ、福祉問題の概要、内容やしくみ、課題などについて解説する。					
(学習目標)					
①社会福祉の意義と理念を理解すること。②社会福祉の生活問題や人権問題を深く理解すること。③社会福祉の法と実施体制の概要を理解すること。④各分野（児童・家庭・障害、高齢、地域など）の福祉施策の概要を理解すること。⑤社会保障制度の概要を理解すること。					
評価方法・基準					
ワークシート：80％、レポート試験：20％					
履修上の注意点					
授業計画（シラバス）に記載された内容について、テキスト、新聞やニュース、講義用プリント、補足資料などを基に、予習及び復習をしておくことが望ましい。 予習：毎週該当するテキストの範囲を熟読しておくこと。 復習：テキスト、配布された資料や解説された内容を踏まえて、ワークシートを作成し講義終了時に提出すること。					
教科書					
鈴木幸雄編著「改訂現代の社会福祉」中央法規出版、2018					
参考書					
適宜紹介					

	授 業 内 容
1回	講義のオリエンテーション 現代社会の変化と社会福祉（1）：少子高齢社会
2回	現代社会の変化と社会福祉（2）：家族の動向、社会的不平等
3回	社会福祉の理念と意義（1）：社会福祉の基礎理解
4回	社会福祉の理念と意義（2）：社会福祉の基本理念
5回	社会福祉の史的発展（1）：社会福祉の歴史を学ぶ意義とは、イギリスの社会福祉の歴史
6回	社会福祉の史的発展（2）：アメリカの社会福祉の歴史、日本の社会福祉の歴史
7回	社会福祉の法と実施体制（1）：社会福祉の法制
8回	社会福祉の法と実施体制（2）：社会福祉の行財政
9回	児童・家庭の問題と社会福祉（1）：児童・家庭福祉の概念と対象（子ども観）
10回	児童・家庭の問題と社会福祉（2）：児童・家庭福祉の施策
11回	児童・家庭の問題と社会福祉（3）：児童虐待と社会的養護
12回	児童・家庭の問題と社会福祉（4）：ひとり親家庭（母子家庭）
13回	児童・家庭の問題と社会福祉（5）：DVと母子保健
14回	児童・家庭の問題と社会福祉（6）：子育て支援施策と子ども・子育て新制度、課題
15回	障害児・者の問題と社会福祉（1）：障害児・者福祉の概念と対象

	授 業 内 容
16回	障害児・者の問題と社会福祉（2）：障害児・者福祉の施策、課題
17回	高齢者の問題と社会福祉（1）：高齢者福祉の概念と対象
18回	高齢者の問題と社会福祉（2）：高齢者福祉の施策、課題
19回	現代社会の貧困問題と社会福祉（1）：現代社会と貧困問題（子どもの貧困）
20回	現代社会の貧困問題と社会福祉（2）：生活保護制度の概要、課題
21回	地域福祉の推進と利用者保護制度（1）：今日の地域福祉をめぐる状況、地域福祉の考え方
22回	地域福祉の推進と利用者保護制度（2）：地域福祉の推進、利用者保護制度
23回	社会福祉の担い手と専門職制度（1）：社会福祉従事者の概要、社会福祉専門職の資質と倫理
24回	社会福祉の担い手と専門職制度（2）：社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保育士の業務内容、保健・医療等関連分野の専門職との連携
25回	相談援助技術の概要（1）：相談援助の意味と視点
26回	相談援助技術の概要（2）：相談援助活動の枠組み
27回	日本の社会保障制度（1）：社会保障の概念、年金保険制度
28回	日本の社会保障制度（2）：医療保険制度、雇用保険・労働者災害補償保険制度、社会保障制度の課題
29回	社会福祉の動向と課題（1）：日本における社会福祉の動向
30回	社会福祉の動向と課題（2）：社会福祉の課題、講義のまとめ（レポート作成）

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子ども家庭支援論			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 子ども虐待の相談対応件数が増加し社会問題となっている。ハイリスクケースへのアプローチだけではなく、子ども虐待に至らないよう、ポピュレーションにおけるアプローチも重要とってくる。 子どもとその家庭への理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、それを実践するための方法や技術について学ぶ。					
(学習目標) 子どもや家庭、保護者への支援について説明することが出来る。 現代社会における子育てをめぐる問題とその背景について理解する。 保育者として相談者への適切な配慮や具体的支援について例を挙げて説明することが出来る。 地域にある社会支援を調べ、説明することが出来る。					
評価方法・基準					
リアクションペーパー 30% 筆記試験 70%					
履修上の注意点					
リアクションペーパーに記載するテーマは、講義中に提示します。 記載内容は評価に入りますのでご注意ください。					
教科書					
保育と子ども家庭支援論 石動瑞代編著 みらい ISBN 978-4-86015-488-2 C3036					
参考書					
必要に応じて講義内で紹介する。					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス 子ども家庭支援の意義と必要性 子ども家庭支援の基本的考え方
2回	子ども家庭支援の意義と必要性2 子ども家庭支援の基本的考え方2
3回	子ども家庭支援の意義と必要性3 子ども家庭支援の基本的考え方3
4回	子どもの権利1 子ども権利条約
5回	子どもの権利2 子どもの意見表明
6回	子ども家庭支援の目的と機能 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
7回	要保護児童及びその家庭に対する支援1 親への支援の重要性
8回	要保護児童及びその家庭に対する支援2 虐待による死亡
9回	要保護児童及びその家庭に対する支援3 児童虐待のその後
10回	家庭の状況に応じた支援 新たな親子関係を作る家庭への支援
11回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 保育が子ども家庭支援に果たす役割
12回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援2 関係機関との連携・協力
13回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援3 地域子育て支援専門職としての支援と実際
14回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源1 子育て家庭を支える社会資源の機能
15回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源2 子育て家庭を支える社会資源の調査

	授 業 内 容
16回	子ども家庭支援の目的と機能1 子ども家庭支援の基本的視点1
17回	子ども家庭支援の目的と機能2 子ども家庭支援の基本的視点2
18回	子ども家庭支援の目的と機能3 子ども家庭支援の基本的視点3
19回	子どもの貧困の理解と家庭への支援1 子どもの貧困とは何か
20回	子どもの貧困の理解と家庭への支援2 子どもの貧困問題における支援の展開
21回	ヤングケアラーの支援 ヤングケアラーの実態と子どもへの支援
22回	保育士に求められる基本的態度1 相談を受ける者の基本的態度
23回	保育士に求められる基本的態度2 相談場面で必要な技術・子どもの育ちの喜びの共有
24回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援1 保育所等が行う地域子育て支援・外国と繋がりのある子どもの保育と支援
25回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 子育て家庭を支える法律や制度
26回	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 子ども家庭支援に関わる各種サービスと実際
27回	障がいをもつ子どもの理解と家庭への支援 日本における障がい児に関する現状・障がいのある子どもや家庭への支援の展開
28回	子ども家庭支援におけるソーシャルワーク1 保育現場に求められるソーシャルワーク・マッピング技法
29回	子ども家庭支援におけるソーシャルワーク2 多職種連携・子どもを中心とした連続性を持った支援
30回	試験

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
社会的養護 Ⅰ A			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
社会的養護とは、何らかの事情により家庭での生活が難しい子どもたちを、社会が責任をもって育てるとともに、子育てに困難を抱える家庭への支援を社会全体で行うことを意味している。本講義では、社会的養護の意義やその必要性について理解するとともに、制度や実施体系、その現状を学ぶことにより、権利擁護や社会的養護が抱える課題などについて概説する。					
(学習目標)					
1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。					
評価方法・基準					
ワークシート：80%、レポート試験：20%					
履修上の注意点					
授業計画（シラバス）に記載された内容について、テキスト、新聞やニュース、講義用プリント、補足資料などを基に、予習及び復習をしておくことが望ましい。 予習：毎週該当するテキストの範囲を熟読しておくこと。 復習：テキスト、配布された資料や解説された内容を踏まえて、ワークシートを作成し講義終了時に提出すること。					
教科書					
鈴木幸雄編著「社会的養護Ⅰ－『新しい社会的養育ビジョン』の理解に向けて－」同文書院、2022					
参考書					
適宜紹介					

授 業 内 容	
1回	講義のオリエンテーション 社会的養護とは何か(1)
2回	社会的養護とは何か(2)
3回	社会的養護の歴史的変遷
4回	子どもの人権擁護と社会的養護
5回	社会的養護に関する社会的状況
6回	社会的養護の基本的考え方
7回	社会的養護における保育士等の倫理と責務
8回	社会的養護の制度と法
9回	社会的養護の仕組みと実施体制
10回	社会的養護の対象と支援
11回	家庭養護と施設養護
12回	社会的養護とソーシャルワーク
13回	施設等の運営管理
14回	被措置児童等虐待の防止と権利擁護
15回	社会的養護と地域福祉 講義のまとめ（レポート作成）

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育者論A		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 保育者としての意義・役割・多様な職務に関する知識・理解を深める。 2. 保育者としての資質や専門性を理解する中で、現代に求められる理想の保育者像を明確化する。					
(学習目標)					
保育者の仕事と役割、保育者になるための学び、保育士の制度的な位置づけ、保育者の職務等を題材にして、あるべき保育者像について学び、考えていく。 保育者の仕事と職務を正しく認識することができるようにする。 保育と指導技術についての基礎・基本的な知識・技術を習得することができるようにする。 子育て支援の社会的意味・意義についての認識を正しく持つことができるようにする。 これからの保育者に期待される幅広い知識・教養・技術・技能。コミュニケーション能力、実践研究能力、組織的活動能力の基礎を習得することが出来るようにする。					
評価方法・基準					
出席状況・授業への貢献度・積極性、レポート、試験などを総合的に評価する。					
履修上の注意点					
保育者を目指す者として、目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。					
教科書					
特になし					
参考書					
「保育者論（アクティベート保育学2）」汐見稔幸（ミネルヴァ書房）					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 保育者の役割と職務内容
2回	保育者の倫理
3回	保育者の資格と責務
4回	保育者の資質・能力
5回	養護及び教育の一体的展開
6回	家庭との連携と保護者に対する支援
7回	計画に基づく保育の実践と省察・評価
8回	保育の質の向上
9回	保育における職員間の連携・協働
10回	専門職間及び専門機関との連携・協働
11回	地域社会との連携・協働
12回	関係機関等との連携・協働
13回	資質向上に関する組織的取り組み
14回	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義
15回	組織とリーダーシップ まとめ

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育の心理学			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 発達科学の諸理論を学び、子どもや養育環境に対する保育士としての専門的な視座を確立することを目的とする。 2. 子どもを取り巻く複雑で多様な課題を理解し、その課題に立ち向かうための多職種による連携・協働についても取り扱う。					
(学習目標)					
1. 保育実践の基盤となる概念や理論について他者と意見を交流し、深く理解することができる。 2. 保育実践の基盤となる概念や理論について保育士以外の専門家や養育者にも伝わるように説明することができる。					
評価方法・基準					
・ 出席 30%…出席は重要な課題 ・ 授業・実習の参加態度 30%…積極的な参加を期待 ・ テスト（もしくはレポート課題）40%…知識の定着の努力					
履修上の注意点					
・ 話し合いの場に積極的に参加すること。					
教科書					
やさしく学ぶ保育の心理学Ⅰ・Ⅱ（第2版） 浜崎隆司、田村隆宏、湯地宏樹（ナカニシヤ出版）					
参考書					
・ 保育の心理学―育ってほしい10の姿（中山書店）					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	子どもの発達を理解することの意義について
3回	ディスカッション①—生涯発達のイメージについて
4回	健康な心と体について
5回	発達障害と精神疾患—乳幼児と保護者に着目して
6回	ディスカッション②—対人援助職の専門性について
7回	認知発達理論と子ども観—ピアジェの理論
8回	認知発達理論と子ども観—ヴィゴツキー、ワロン、ブルーナーの理論
9回	言語発達理論—チョムスキー、トマセロ、ブルーナーの理論
10回	乳幼児の学びと理論—思考力と遊びの関係性
11回	自然との関わりと生命尊重
12回	ディスカッション③—国際比較から見る日本の保育、教育の現状について
13回	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
14回	言葉による伝え合い—言語の機能と獲得、コミュニケーションの発達
15回	ディスカッション④—メリトクラシーと保育

	授 業 内 容
16回	豊かな感性と表現—感性の発達と創造性
17回	自立心—認知的スキル、社会情動的スキル、自己効力感と自己肯定感
18回	ディスカッション⑤—自己肯定感を育むための方法
19回	協同性—社会性の発達、愛着理論
20回	児童虐待と子育て支援について—虐待事例とその対応から
21回	ディスカッション⑥—児童虐待はなぜ起こるのか
22回	道徳性・規範意識の芽生え—道徳・正義感の発達
23回	特別講義—小学校における道徳教育の展開と幼保小連携について
24回	ディスカッション⑦—学校臨床における教育実践と実情について
25回	社会生活との関わり—社会適応能力の発達
26回	乳幼児の学びと発達を支える保育
27回	子育て支援と保護者対応—カウンセリングマインドと親ガイダンス
28回	単位認定テスト
29回	ディスカッション⑧—若者の現状と課題、日本の社会モデルの課題について
30回	講座の振り返り

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子どもの保健			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育所保育指針 総則（２）保育の目標に、“十分に養護の行き届いた環境下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること”とあります。この目標を達成するために必要な“子どもの保健”の意義を考え、子どもの命を守り健やかな育ちを支えるために必要な子どもの成長・発達、心身の健康に関して、知識や技能を学ぶとともに保育現場で生かせる力を身に付けることをテーマとします。					
(学習目標)					
・子どもの心身の健康と保健活動の意義がわかる ・子どもの身体的発育・発達についてわかる ・子どもの心身の健康状態とその把握についてわかる ・子どもの疾病の予防及び適切な対応についてわかる					
評価方法・基準					
授業への参加姿勢・出欠 20％ テスト 80％					
履修上の注意点					
授業は教科書に沿って進めるが、進度によっては変更する可能性あり。					
教科書					
『子どもの保健テキスト』 編著 小林美由紀 診断と治療社					
参考書					
随時提示する					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス
2回	第1章 子どもの健康と保健 ①保健活動の意義と目的
3回	②子どもの出生と母子保健の意義
4回	③現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
5回	第2章 子どもの発育と発達 ①子どもの身体発育と運動機能の発達
6回	②生理機能の発達と生活習慣
7回	第3章 地域における保健活動と子どもの虐待防止 (1) ゲスト講師 子どもアシストセンター 子どもの権利調査員 祐川 絵理香氏
8回	質疑応答・休憩含め 90分
9回	地域における保健活動と子どもの虐待防止 (2)
10回	第4章 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 ①子どもの健康状態の把握
11回	②子どもの体調不良時によくみられる症状 (1)
12回	②子どもの体調不良時によくみられる症状 (2)
13回	第5章 子どもの病気 ①子どもの免疫の発達と感染症の特徴
14回	②感染症の予防および適切な対応 (1)
15回	②感染症の予防および適切な対応 (2)

	授 業 内 容
16回	③救急疾患の特徴と適切な対応（１） ゲストティーチャー
17回	③救急疾患の特徴と適切な対応（２）
18回	③救急疾患の特徴と適切な対応（３）
19回	第５章 子どもの病気 ③救急疾患の特徴と適切な対応 ２事故やけがの時の特徴と対応（１）
20回	２事故やけがの時の特徴と対応（２）
21回	◇事例交流・検討
22回	２事故やけがの時の特徴と対応（３）
23回	２事故やけがの時の特徴と対応（４）
24回	◇事例交流・検討
25回	⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（１）
26回	⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（２）
27回	⑥慢性疾患の特徴と適切な対応
28回	まとめ・テスト
29回	◇事例交流・検討
30回	◇事例交流・検討

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育の計画と評価A		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育を实践する上で子どもの興味関心を踏まえ計画を立て保育实践をしていく事が大切であるが、实践には柔軟性をもって展開させる事、实践後は保育者に対する反省をもって次の实践の内容を計画していく事が重要である事を理解する。その中で保育の本質である、子どもの姿に寄り添う事、受容、共感、応答的にかかわる事の大切さについて学ぶ。保育の計画を立てる上で前提となる子どもの発達を理解を深めながら保育を計画する事、評価することの意義について学び、なぜ計画を立てるのかという本質を理解しする。					
(学習目標)					
保育の計画についての考え方、子どもの発達に見合った指導案作成の基本を学ぶ。PDCAサイクルに基づく改善の過程についてその全体構造を理解し環境を通した実践する中で子どもの成長を保証していく事理解する。					
評価方法・基準					
平常点 (30%) 試験 (70%)					
履修上の注意点					
特になし					
教科書					
教育課程・保育の計画と評価 (萌文書林)					
参考書					
保育所保育指針解説 (フレーベル館)					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	保育における計画を立てる必要性について理解する ～活動の主は子ども。主体的な活動の積み重ねで子どもが育つ～
3回	保育における計画の種類 計画の全体像について理解する。
4回	環境を通した保育とは
5回	遊びを通しての指導
6回	主体的な保育の実践について
7回	ねらい及び内容について
8回	子ども発達、興味関心にそったねらいの立て方、考え方について
9回	保育における計画の重要性について学ぶ
10回	実習における指導案の種類と書き方、書くポイントについて
11回	指導案作成におけるねらいの立て方、子どもの活動の設定について
12回	指導案を実践するにあたっての事前の準備とシュミレーション
13回	保育実践における自己肯定感を育むかわりについて学ぶ 受容、共感、応答的な保育者のかかわりについて
14回	指導案実践後の評価について～子どもの姿をどう考えるか～
15回	試験

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
乳児保育Ⅰ		2単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
0歳～3歳未満児の発達上の特徴、基本的な知識について学ぶ。 乳児に関わる保育者の役割を理解し、援助・配慮点、環境構成を学ぶ。 乳児の保育計画や、保護者への支援について学びを深める。					
(学習目標)					
1 乳児保育の意義・目的及び役割について理解する。 2 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と環境構成について理解する。 3 保育者間の連携・保護者や地域との連携について理解する					
評価方法・基準					
出席・学習意欲・態度50% 提出物・テスト等50%					
履修上の注意点					
・理論の理解を深めるために関連演習も適宜行う。主体的に参加し考える習慣をつける。 ・ワークプリントは適宜配布する。 ・0～3歳未満児の具体的な遊び理解の為、実技も適宜実施する。					
教科書					
？〈ハテナ〉から考える乳児保育Ⅰ・Ⅱ（教育情報出版）					
参考書					
保育所保育指針					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	乳児保育の意義・目的と変遷
3回	乳児保育および家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
4回	保育所における乳児保育
5回	児童福祉施設・家庭的保育・小規模保育等における乳児保育
6回	関連演習～ 乳児の生活援助の実際
7回	応答的に行われる保育とは
8回	3歳未満児の生活と環境①
9回	3歳未満児の生活と環境②
10回	3歳未満児の遊びと環境①
11回	3歳未満児の遊びと環境②
12回	小テスト
13回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育①
14回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育②
15回	関連演習～ 追視 ・ 手指の発達

	授 業 内 容
16回	発達をふまえた保育者による援助やかかわり①
17回	発達をふまえた保育者による援助やかかわり②
18回	確認ワーク
19回	発育・発達をふまえた保育における配慮①
20回	発育・発達をふまえた保育における配慮②
21回	確認ワーク
22回	乳児保育の計画・記録・評価①
23回	乳児保育の計画・記録・評価②
24回	乳児の指導案について
25回	職員間の連携・協働
26回	保護者との連携・協働
27回	自治体や地域の関係機関等との連携・協働
28回	まとめ①
29回	最終テスト
30回	まとめ②

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育のシゴトA		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育士の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。					
(学習目標)					
社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、社会的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習を行う。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	「保育者への期待と専門性の向上」
2回	※各回、保育園、乳児院、児童デイサービス等で勤務されている園長先生や管理者の方にご講義を担当頂きます。
3回	
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育のシゴトB			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 表現活動に係る児童文化財等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的な展開のための技術を習得する。					
(学習目標) 子どもの発達と児童文化財等に関する知識と技術を習得する。 さまざまな教材の特性を理解し、活用することが出来る。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション 児童文化財とは何か
2回	表現の技術（現役保育士による実演）①
3回	表現の技術（現役保育士による実演）②
4回	児童文化教材の作成①
5回	児童文化教材の作成②
6回	児童文化教材の作成③
7回	児童文化教材の作成④
8回	児童文化教材の作成⑤
9回	児童文化教材の作成⑥
10回	児童文化教材の作成⑦
11回	児童文化教材の作成⑧
12回	児童文化教材の作成⑨
13回	児童文化教材の実践発表①
14回	児童文化教材の実践発表②
15回	児童文化教材の実践発表③ まとめ

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
文章表現		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
本科目では、保育士にとって必要となる文章作成スキルの習得を目的とする。 保育士は、日々の保育活動の中で、連絡帳、保育記録、園だよりなど、 さまざまな文章を作成する必要がある。文章作成の基礎スキルを身につけることで、 コミュニケーションを円滑にすることを目指す。					
(学習目標)					
- 文章作成に必要な基礎知識の習得 - 保育士が作成する書類の基礎知識の習得					
評価方法・基準					
- 出席等の授業姿勢 - 演習レポート5回（期限内に提出）					
履修上の注意点					
書く努力をすること					
教科書					
文書の書き方&文例集（ナツメ社）					
参考書					

授 業 内 容	
1回	文章表現能力とは
2回	文章作成・構成の基礎知識
3回	実践演習①（文章構成）
4回	フィードバック
5回	論理展開の基礎知識
6回	実践演習②（論理展開）
7回	フィードバック
8回	ビジネス文章の基礎知識
9回	実践演習③（ビジネス文書）
10回	フィードバック
11回	お礼状の基礎知識
12回	実践演習④（お礼状）
13回	フィードバック
14回	実践演習⑤（総合）
15回	グループワーク

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子どもの理解と援助			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
・「物事を深く考えていない」「自己中心的な存在」など否定的な見方をされることが多い子どもたちだが、「果たして本当にそうなのだろうか？」子どもの気持ちに寄り添うことの大切さを改めて知る。 ・現場の子どもたちのエピソードや現場のDVD（動画）をもとに考える。					
(学習目標)					
1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					
評価方法・基準					
授業態度（60％＝4％×15回）レポート（40％＝10％×4回）で評価					
履修上の注意点					
教科書					
こどものみかた春夏秋冬 柴田 愛子：福音館書店					
参考書					
保育の瞬間 柴田 愛子：学研 子どもたちのミーティング 柴田 愛子・青山 誠共著：りんごの木 保育でつむぐ子どもと親のいい関係 井桁 容子：小学館 新しい保育講座3 子ども理解と援助：ミネルヴァ書房 保育の「ヘンな文化」そのままでいいんですか！？ 柴田 愛子・大豆生田啓友：小学館 育てたように子は育つ 相田みつを・佐々木正美：小学館文庫					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション（講義の方向性を再認識する） 保育原理の「子ども理解」を振り返る
2回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？①
3回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！①（DVD視聴）【レポート①】
4回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？②
5回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？③
6回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！②（DVD視聴）【レポート②】
7回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？④
8回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？⑤
9回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！③（DVD視聴）【レポート③】
10回	子どもの気持ちを知った保育者の対応は？①
11回	子どもの気持ちを知った保育者の対応は？②
12回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！④（DVD視聴）【レポート④】
13回	子どもをより知るための方法 （よく観る・メモをとる・振り返る・対話・連絡帳やクラス便りで共有）
14回	特別な配慮を要する子どもを通じて
15回	まとめ（振り返り）

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子どもの食と栄養			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
乳幼児期は食習慣の基礎が培われる重要な時期であり、子どもの食生活は保護者と園での生活を支援する保育者の食環境が大きな影響を与える。 子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康の基礎となることを理解し、保育の場での食環境の重要性を学ぶ。 また、食事は栄養補給だけが目的ではなく、心を満たす大きな役割があることを理解する。					
(学習目標)					
(1) 発達発育の時期に重要な栄養素とその働きについて理解し、説明することができる。 (2) 現代の子どもや保護者を取り巻く環境を理解し、保育者として問題解決する方法を考え、説明することができる。 (3) 食育の基本とその内容を理解し、乳幼児や保護者を対象とした食育教材を作成し、その意図を説明することができる。					
評価方法・基準					
筆記試験（50％）、授業への参加状況（30％）、レポート・実践発表（20％）					
履修上の注意点					
専門職を目指すものとしての自覚をもって、自ら課題を持ち、意欲的に学ぶこと。					
教科書					
小川雄二編著『子どもの食と栄養演習〔第6 版〕』（建帛社）ISBN 978-4-7679-5138-6					
参考書					
なし					

授 業 内 容	
1回	子どもの健康と食生活の意義
2回	子どもの健康と食生活の意義
3回	栄養と食品に関する基礎知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の働き
4回	栄養と食品に関する基礎知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の働き
5回	栄養と食品に関する基礎知識（2）日本人の食事摂取基準
6回	栄養と食品に関する基礎知識（2）日本人の食事摂取基準
7回	栄養と食品に関する基礎知識（3）食品の基礎知識と献立作成と調理の基本
8回	栄養と食品に関する基礎知識（3）食品の基礎知識と献立作成と調理の基本
9回	子どもの発育・発達と栄養生理（1）子どもの発育と発達
10回	子どもの発育・発達と栄養生理（2）子どもの栄養と生理①
11回	子どもの発育・発達と栄養生理（3）子どもの栄養と生理②
12回	子どもの発育・発達と食生活（1）授乳期①
13回	子どもの発育・発達と食生活（2）授乳期②
14回	子どもの発育・発達と食生活（3）離乳期①
15回	子どもの発育・発達と食生活（4）離乳期②

	授 業 内 容
16回	子どもの発育・発達と食生活（5）幼児期
17回	子どもの発育・発達と食生活（5）幼児期
18回	子どもの発育・発達と食生活（6）学童期・思春期
19回	子どもの発育・発達と食生活（7）妊娠期
20回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
21回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養
22回	食育の基本と内容（1）食育における養護と教育の一体性
23回	食育の基本と内容（2）食育の内容と計画および評価・食育の指導案作成①
24回	食育の基本と内容（4）食育の指導案作成②
25回	幼児の食に関する指導（1）食育媒体の作成①
26回	幼児の食に関する指導（2）食育媒体の作成②
27回	幼児の食に関する指導（3）食育媒体の作成③
28回	幼児の食に関する指導（4）発表
29回	幼児の食に関する指導（5）発表
30回	筆記試験

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容総論			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 保育内容とは何かを学び、保育内容を構成する「養護」と「教育」の一体制を理解する。 2. 保育所保育指針の資質・能力や、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、5領域について理解し、それらが総合的に関連している事を学ぶ。 3. 保育者の専門性について学び、学生同士で事例検討を行い学びを深める。					
(学習目標)					
1. 乳幼児期は、生涯の人格形成を培う重要な時期であることを理解し、子どもの最善の利益とはどのようなことかを学び、保育士としての役割を理解する。 2. 子どもや保護者を取り巻く社会背景や保育の歴史的変遷を踏まえ保育内容の展望と課題を理解する。 3. 保育の多様性について（障がい児保育、延長保育、一時保育等）理解し、子育て支援も含め具体的な保育内容を知る。					
評価方法・基準					
・出席状況 20% ・授業態度 40% ・試験 40%					
履修上の注意点					
お互いの思いや考え方を尊重し、自分の思いや考え方を述べる					
教科書					
保育内容総論（中央法規）					
参考書					
保育所保育指針解説 平成29年告示（フレーベル館）					

	授 業 内 容
1回	保育所保育指針に基づく保育の全体構造
2回	保育所保育指針に基づく保育内容の理解①養護
3回	保育所保育指針に基づく保育内容の理解②教育
4回	保育内容の歴史的歴史的変遷とその社会的背景
5回	子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方
6回	養護と教育が一体的に展開する保育
7回	子どもの主体性を尊重する保育
8回	環境を通して行う保育
9回	生活や遊びによる総合的な保育
10回	個と集団の発達を踏まえた保育
11回	家庭や地域等との連携をふまえた保育 小学校との連携をふまえた保育
12回	長時間の保育
13回	特別な配慮を要する子どもの保育
14回	多文化共生の保育
15回	試験

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（ことば）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 「言葉」は人間がコミュニケーションを行い、他者と心を通わせる上で欠かすことができない手段の一つです。言葉は単に年齢によって自然に育っていくのではなく、一人一人の子どもたちの成長に応じた適切な家庭環境や保育環境の中で少しずつ築かれていくものです。それを見極めるには、発達のプロセスを学びましょう。					
(学習目標) 人間が言葉を獲得していく過程とどんな環境が言葉を豊かにしていくのかを考え、表現してみましょう。					
評価方法・基準					
小テスト・・・30点 授業態度・出席状況・・・20点 製作・発表・・・50点					
履修上の注意点					
発達の過程を学んでください。ただ、子ども発達は凸凹で一人一人違います。皆さんの発達もそれぞれ違うでしょう？その時々で一番良い指導を考え、環境作りをするのが大切なのです。そんな目を持って学びましょう。					
教科書					
保育所保育指針 参考書の中から取り出して、プリントを用意します。					
参考書					
乳幼児の「言葉」のしくみと発達の鍵・・・今福理博著 保育内容「言葉」と指導法・・・萌文書林 発達（172号）・・・ミネルヴァ書房					

	授 業 内 容
1回	・オリエンテーション ・子どもの言葉を理解する
2回	領域「言葉」のねらいと内容（保育所保育指針）
3回	言葉に対する感覚を豊かにする保育
4回	乳幼児期の自発的・主体的な活動
5回	非認知能力につて
6回	・絵本について ・小テストについて
7回	・小テスト（30分） ・特別配慮が必要な子どもへの対応①
8回	特別配慮が必要な子どもへの対応②
9回	パネルシアター制作のグループ決め・題材決め・役割分担①
10回	絵本 紙芝居 ペープサート 手袋シアター エプロンシアター パネルシアター
11回	パネルシアター制作のグループ決め・題材決め・役割分担②
12回	製作・練習
13回	製作・練習
14回	発表
15回	発表

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（人間関係）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育所保育指針に示された保育所保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育における子ども、保護者、地域社会を含めた「人間関係」についての知識や援助方法を習得する。					
(学習目標)					
保育所保育指針の領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、乳幼児における「人と関わる力」の育ちの過程を理解する。また、保護者との人間関係、保育者同士の人間関係の重要性を理解する。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性、試験成績等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
保育内容「人間関係」と指導法（中央法規）					
参考書					
適宜、参考資料を配布します。 保育所保育指針解説 平成29年告示（フレーベル館）					

授 業 内 容	
1回	保育の基本 領域「人間関係」
2回	0歳以上3歳未満児の子ども人間関係の発達
3回	3歳以上児の子ども人間関係の発達
4回	乳幼児の子どもの人と関わる力を育む保育者の関わり
5回	自立心を育む
6回	道徳性・規範意識の芽生え
7回	協同して物事に取り組む
8回	社会生活とのかかわり
9回	遊びと人間関係の発達
10回	人と関わる力を育む指導計画の作成
11回	特別な配慮を必要とする子どもの保育
12回	子どもの育ちを支える保育者の人間関係
13回	ICTを活用した保育
14回	人間関係における今日的課題
15回	試験

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（表現）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
（授業のテーマ） 保育内容を構成する5領域のひとつである「表現」では、表現活動が子ども自身の心の中にどのように広がり深まっていくのかを習得する。 また、音楽・造形・身体表現の基礎知識を深めながら、保育現場で実際にどのように援助活動がすすめられるのか体得する。					
（学習目標） より実践的なグループワーク等の演習を通し、常に保育現場にいる子どもたちの姿を感じながら、子どもの心に寄り添う表現技術の習得を目標とする。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
表現の指導法（田澤里喜 編著・玉川大学出版部）					
参考書					
適宜、参考資料を配布する。					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション
2回	領域「表現」とは 5つの領域について
3回	領域「表現」の変遷 保育所保育指針における表現
4回	生活の中における子どもの表現 倉橋惣三「生活を生活で生活へ」
5回	日常における表現あそび（事例1）
6回	日常における表現あそび（事例2）
7回	乳幼児期における音楽表現について 音楽表現のねらいと立場
8回	教育環境から見た音楽表現
9回	音楽表現の実際（事例） ハンドベル・楽器
10回	造形表現について 造形表現の基礎知識
11回	造形表現をはぐくむために
12回	子どもの造形表現を理解する
13回	身体表現について 保育者の身体表現の実際
14回	運動遊び
15回	まとめ 保育所保育指針小テスト④

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（環境）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育現場や実習等で生かす為、発達年齢に合わせた環境作りをより深く学び、子どもや保護者が安心して育ち、育てあえる魅力的な環境を考える。 国内外の映像資料を見たり、実際に保育現場等をテレビ会議システムで繋ぎ、子ども・保育者の目線で見た環境を知るなど、より実践的に学んでいく。					
(学習目標) 現在の子ども達が置かれている生活環境や保護者の現状、国や行政の政策や指針を理解し、保育者の役割と保育環境の重要性を理解する。周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかわり、それらを園生活に取り入れていこうとする力を保育者自身が養い魅力ある保育環境を目指す。					
評価方法・基準					
①平常点：毎回授業時に課す簡単な課題への回答（40%） ②課題：模擬指導案への評価（10%） ③試験：第14 回に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価。（50%）					
履修上の注意点					
学生が考え討議し発表することを大切に、興味関心を持って授業に主体的参加をすること。					
教科書					
指定教科書なし					
参考書					
『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『現場の視点で新要領・指針を考えあう』大宮勇雄・川田学・近藤幹生・島本一男編 ひとなる書房					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション、指針・要領における5 領域
2回	領域「環境」のねらい、内容、内容の取り扱い
3回	人的環境として子ども達に大きな影響を与える保育者の重要性とあるべき姿・援助
4回	生活に関係の深い情報や施設に興味や関心をもつこと
5回	自然に親しみ、植物や生き物に触れること
6回	季節により自然や生活に変化のあることに気付くこと
7回	さまざまな物や道具にかかわって遊ぶこと さまざまな物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つこと
8回	日常生活の中で数量や図形などに関心を持つこと 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつこと
9回	保育内容「環境」に関連する模擬指導案作成
10回	乳幼児期の環境とのかかわりの特徴（好奇心、探究心）
11回	現代の子どもを取り巻く環境と領域「環境」
12回	保育内容「環境」に関連する環境構成の工夫
13回	まとめ、振り返り、子どもを取り巻く環境（オンライン保育参観）
14回	試験
15回	続子どもを取り巻く環境（オンライン保育参観）

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育内容の理解と方法（音楽表現）		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 音楽理論（楽典）と実践で基礎となる音符・リズム・指使い・伴奏コードを学び、簡単な伴奏法で弾く					
(学習目標) 1. 課題曲「おべんとう」で ♩ リズムを正しく弾けるようにする。 2. 自主練習で弾き歌いにも慣れる。					
評価方法・基準					
・音楽理論 50点満点 ・ピアノ実技 50点満点 弾き歌いが出来ていれば、さらに評価加味する。					
履修上の注意点					
・新しい曲にとりかかる時は右手から（片手ずつ）音符、指使い、リズム等を正しく読譜すること ・弾きにくい箇所を反復練習することが上達の早道					
教科書					
「大人のための音楽ワークドリル」 プリントした楽譜（レベル1とレベル3用意有り）					
参考書					

	授 業 内 容
1回	テキストの①章 五線と音の高さ
2回	みつばちマーチ、メリーさんの羊、ぶんぶんぶん、チューリップでコード（C、F、G7）の練習
3回	課題曲「おべんとう」片手ずつ
4回	テキスト②章 音名と変化記号
5回	「おべんとう」片手ずつ～両手
6回	「おべんとう」片手ずつ～両手
7回	テキスト③章 音符と休符
8回	「おべんとう」両手
9回	山の音楽家
10回	テキスト④章 拍子
11回	「おべんとう」
12回	大きな栗の木の下で
13回	音楽理論テスト
14回	「おべんとう」弾き歌いテスト
15回	「おべんとう」弾き歌いテスト

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容の理解と方法（身体表現）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
自分の身体表現を自覚することは、子どもの身体表現を理解することにもつながる。また、子ども達に身体表現の楽しさを伝えるためには、自らがその楽しさを体感している必要がある。身体表現を通して、子どもの感性・意欲・創造性を育む援助・指導ができるようになるために自身の身体・身体感覚と向き合い、物や他者と関わりながら身体を使ったあそびや表現を楽しみ、自信をつけましょう。					
(学習目標)					
・身体に関する基礎的知識の理解を深め、身体を動かすことや身体で表現することの楽しさを味わうこと。また、幼児にとっての身体表現の重要性を知ること。 ・子どもの発達過程と身体表現の関連について理解すること。 ・指導者としての「表現力」「ことばかけ」を理解し、より良い身体表現活動ができる知識と技術を身につけること。					
評価方法・基準					
出席・学習態度 60％ 毎回のレポート 15％ 試験（最終授業）25％					
履修上の注意点					
実技と理論の授業形式 偏らないように出席すること。 実技は運動に相応しい服装で臨むこと。 積極的な姿勢で参加すること。 プリント類は各自ファイルにまとめて管理・保管。					
教科書					
参考書					
～すこやかな子どもの心と体を育む～ 運動遊び 建帛社 子ども・からだ・表現 ～豊かな保育内容のための理論と演習～ 市村出版 保育表現技術 豊かに育つ・育てる身体表現 ミネルヴァ書房					

	授 業 内 容
1回	講義 オリエンテーション 身体表現とは。
2回	講義 乳幼児の身体と発育発達
3回	講義 乳幼児の運動機能の発達
4回	実技 身体表現の基本：自分に身体の状態を知る・からだほぐし・からだづくり
5回	実技 リズム運動・表現運動・ダンス
6回	実技 物を関わる身体表現あそび
7回	実技 身体表現の基本：自分の身体の状態を知る・からだほぐし・からだづくり
8回	実技 リズム運動・表現運動・ダンス
9回	実技 人と関わる身体表現遊び
10回	実技 身体表現の基本：からだほぐし・からだづくり・からだ自由に動かす
11回	実技 実技のまとめ・身体表現グループワーク
12回	実技 身体表現グループワーク
13回	講義 実技と講義のまとめ
14回	講義 乳幼児の心の発達
15回	講義 まとめ確認テスト（プリント持ち込み可）

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容の理解と方法（造形表現）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育における「造形表現」の意味を理解し（理念の把握）、その意味を具現化するための方法を体得する（方法の体得）。 ■理念の把握：造形表現（造形性・創造性・人間性）についての理解を深める。 ■方法の体得：教材の試作を通して、造形表現の方法を体得する。					
(学習目標) ■造形性・創造性・人間性という3つの観点を踏まえて、造形表現の意味を説明できる。 ■教材の試作に基づいて、造形表現の意味を具現化するための方法を説明できる。					
評価方法・基準					
授業参加度・出席態度・スケッチブック・制作過程・制作物をみて総合的に評価する。					
履修上の注意点					
忘れ物厳禁【スケッチブック、水彩絵の具、パレット、水入れ、筆、雑巾、クレパス、はさみ、のりなど】					
教科書					
なし					
参考書					
「新造形表現 実技編」編著 花篤實・岡田悠吾、「美術教育概論」日本文教出版（改訂版）、「GIFTS FROM THE CHILDREN 子どもたちからの贈りもの—レジャ・エミリアの哲学に基づく保育実践」秋田喜代美 著（萌文書林）、「ハーバード・プロジェクト・ゼロの芸術認知理論とその実践」池内慈朗 著（東信堂）					

授 業 内 容	
1回	「オリエンテーション1」授業の目的・内容・方法・評価 ＊レポートと教材の試作に関する説明を含む。
2回	「オリエンテーション2」子どもの表現とアートについて
3回	「オリエンテーション3」保育指針「表現」について
4回	子どもの表現「形の発見」：折り紙を使った活動1「切り絵」
5回	子どもの表現「形の発見」：折り紙を使った活動2「切り絵」
6回	子どもの表現「イメージの発見」：偶然性からの展開
7回	色について：絵の具を使った活動1「フィンガーペインティング」色の特性を知る
8回	子どもの表現「行為と発見」：絵の具を使った活動2「フィンガーペインティング」絵の具の質感を楽しむ
9回	子どもの表現「行為と発見」：絵の具を使った活動3「フィンガーペインティングの展開」
10回	子どもの表現の発達段階と特徴：クレパスを使った活動1「スクリブルと身体」「見立て」「多視点」など
11回	子どもの表現「行為と発見」：絵具とクレパスを使った活動1「塗り絵」
12回	子どもの表現「行為と発見」：絵の具とクレパスを使った活動2「パチックとステイニング」はみ出す色について
13回	子どもの表現「こどもの発達と気持ち」：事例をもとにこどもの気持ちを想像する
14回	子どもの表現「遊びと表現」：クレパスを使った活動2「写し絵」「スクラッチ」
15回	子どもの表現「美しさの発見」：クレパスを使った活動3「ステンシル」「活動の振り返り」育みたい資質・能力と適切な援助についての考察とまとめ

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
子どもの健康と安全		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育保健において、子どもの健康と安全は最重要課題であると考えます。子どもの健康と安全を守るために必要な保育環境についてわかるとともに、保育施設内外での事件事故を防ぐための知識と技能について身に付け、保育現場で生かせる力を身に付けることをテーマとします。					
(学習目標)					
・ 保健的観点を踏まえた保育環境および援助についてわかる ・ 保育における健康および安全の管理についてわかる ・ 子どもの体調不良などに対する適切な対応についてわかる ・ 子どもがよくかかる感染症の対策についてわかる ・ 保育に必要な保健的対応についてわかる ・ 健康および安全の管理の実施体制についてわかる					
評価方法・基準					
授業への参加姿勢・出席 20% ワークシート 80%					
履修上の注意点					
授業は教科書に沿って進めるが、進度によっては変更する可能性あり。					
教科書					
『子どもの健康と安全演習ノート』 編著 小林美由紀 診断と治療社					
参考書					
随時提示する					

授 業 内 容	
1回	ガイダンス 第1章 保健的観点を踏まえた保育環境および援助を知ろう ① 子どもの健康と保育環境
2回	② 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全の管理
3回	◇事例交流・検討
4回	第2章 保育における健康および安全の管理について知ろう ① 衛生管理（1）
5回	① 衛生管理（2）
6回	第6章 健康及び安全の管理や実施体制を知ろう ① 保育における保健活動の計画および評価
7回	第2章 保育における健康および安全の管理について知ろう ② 事故防止および安全対策
8回	③ 危機管理と災害の備え
9回	◇事例交流・検討
10回	第5章 保育に必要な保健的対応を知ろう ① アレルギー疾患を持つ子どもの養護
11回	② エピペンの使用方法（1）
12回	② エピペンの使用方法（2）
13回	第6章 健康および安全の管理の実施体制を知ろう（1）
14回	↓
15回	まとめ

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
障害児保育			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 障害のある子どもへの配慮や各種制度、具体的支援の技法について近年の知見を理解し、実践力を身につけることを目的とする。 障害のある子どもへの福祉施策を紹介する。また、児童発達支援事業所や放課後等デイサービスにおける実践について具体例を交えながら紹介する。					
(学習目標) 1. 障害のある子どもの特性を理解する。 2. 健常児に対する保育と障害児に対する保育の連続性を理解する。 3. 障害のある子どもや保護者を含めた援助を考えることができる。 4. 子どもの特性を理解し、アセスメントから個別の指導計画を作成することができる。					
評価方法・基準					
テスト-----90% 出席率-----10%					
履修上の注意点					
専門用語や医学的知識も出てきます。分からないことがあれば、そのつど質問してください。その日の講義の終わりにリアクションペーパーを配布します。質問については必ず次の講義でプリントして答えます。					
教科書					
参考書					
発達障害のある子を理解して育てる本、田中哲・藤原里美、学研 「発達障害」だけ子どもを見ないで その子の「不可解」を理解する、田中康雄（SB 新書）					

授 業 内 容	
1回	どこが違うかも・・・気になる子どもの姿
2回	障害とは・・・健常者と連続の中に
3回	知能とは何か・IQ の基本的な考え方
4回	知的障害・社会適応
5回	視覚障害・弱視・色覚異常
6回	聴覚障害・平衡機能障害
7回	音声・言語・咀嚼機能の障害
8回	肢体不自由・内部障害
9回	自閉症スペクトラム症（ASD）
10回	注意欠如多動症
11回	ギフテッドと不登校（1）私たちの秘密基地～「ギフ寺」が問いかけるものDVD
12回	ギフテッドと不登校（2）私たちの秘密基地～「ギフ寺」が問いかけるものDVD
13回	学習障害、発達性協調運動障害、感覚過敏
14回	第4 の発達障害（虐待とマルトリートメント）
15回	共生社会の構築とインクルーシブ保育のあり方

	授 業 内 容
16回	こんなときどうする (1) 生活面
17回	こんなときどうする (2) 対人面, コミュニケーション
18回	こんなときどうする (3) 運動面, 学習面
19回	障害受容からレジリエンス
20回	保護者支援と児童福祉法
21回	障害福祉サービスの概要
22回	療育の諸理論 (1) プレイセラピー, ABA, 認知行動療法
23回	療育の諸理論 (2) 感覚統合, TEACCH プログラム,
24回	療育の諸理論 (3) 代替コミュニケーション, マカトン, 絵カード
25回	アセスメント (1) 目的 心理検査
26回	アセスメント (2) 判断のための質問紙とチェックリスト
27回	個別の指導計画 (3) 事例を通してのアセスメント例
28回	個別支援計画 (4) 事例検討, 情報収集と課題の整理
29回	個別支援計画 (5) 事例検討, 目標設定
30回	テスト

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実習指導ⅠA			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法、実習施設の理解を図り、保育の理論と実践の関係について習熟し、実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。					
(学習目標)					
保育実習の意義・目的・内容といった実習の全体的な枠組みを理解し、実習前にすべき事項の知識と技術を身につけることを目標とする					
評価方法・基準					
出席状況、授業態度、積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
これからの時代の保育者養成・実習ガイド (大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編著 中央法規)					
参考書					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション (実習の手引き)
2回	実習に向けて 実習先希望調査 今後の予定
3回	
4回	実習とは 保育所実習 1) 保育実習の目的 2) 保育園のデイリープログラム
5回	3) 観察のポイント 4) 実習課題(目標)の設定 5) 実習日誌、指導実習(部分実習・責任実習)の実際
6回	
7回	施設実習 児童福祉施設等での実習
8回	関連法変更にもなう対象施設の現状について
9回	対象となる子ども・利用者の実態
10回	事例から学ぶ
11回	子どもから学ぶ 保育者から学ぶ 保育環境から学ぶ
12回	
13回	学生調査票作成 写真撮影 *自身の経歴メモを用意
14回	日誌配布 *全3回分の日誌配布
15回	

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育のピアノA			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
・レガート、スタッカートを弾き分け、フレーズを大切にしながら音楽表現力をさらに高める ・「思い出のアルバム」曲で8分の6のリズムの教え方を学ぶ					
(学習目標)					
・♩ のリズムを正しく弾けるように、重音もきれいに弾けるように練習する。 ・指使いに気を付ける					
評価方法・基準					
・基礎的なリズム、指使い、フレーズ等を正しく弾けているか ・音楽理論テスト（50点満点）ピアノ弾き歌い実技テスト（50点満点）					
履修上の注意点					
・右手のメロディーを正しく弾けてから左手を練習（片手ずつの練習が両手で弾く上で早く上達する）					
教科書					
・大人のための音楽ワークドリル ・紙鍵盤、五線紙					
参考書					

	授 業 内 容
1回	テキスト⑥章 記号と楽語
2回	課題曲「朝のうた」右手
3回	課題曲「朝のうた」右手
4回	テキスト⑥章 音程
5回	課題曲「朝のうた」両手
6回	課題曲「朝のうた」両手
7回	テキスト⑦章 音階
8回	「朝のうた」個人レッスン
9回	「朝のうた」個人レッスン
10回	テキスト⑧章 和音
11回	「朝のうた」個人レッスン
12回	「朝のうた」個人レッスン
13回	楽典テスト 5章～8章
14回	実技テスト「朝のうた」
15回	テスト/残り時間「思い出のアルバム」

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
情報処理		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育現場における業務の多様化・多忙化・高度化が起きている。さまざまな情報機器の導入やデジタル化、事務作業の多様化から求められている資質・能力が高度化した。これらのことから情報機器の基本操作を学び、作業能力の向上に資することを目的とする。主に文書作成ソフトウェア・表計算ソフトウェア・プレゼンテーションソフトウェアの操作方法を講義と演習で学び、個人情報・著作権の保護、セキュリティについての知識もあわせて身につける。					
(学習目標)					
・情報リテラシー（知的財産権、引用・剽窃・出典など、情報モラル、情報セキュリティ）の知識を身につける。 ・文書作成ソフトウェアを用いて、文書作成・表作成・図形描画を学ぶ。 ・表計算ソフトウェアを用いて、表作成・基本関数・グラフを学ぶ。 ・プレゼンテーションソフトウェアを用いて、スライド作成・特殊効果の設定を学ぶ。					
評価方法・基準					
出席・授業態度：30% 情報リテラシーの課題：10% 文書作成ソフトウェアの課題：20% 表計算ソフトウェアの課題：20% プレゼンテーションソフトウェアの課題：20%					
履修上の注意点					
毎回USB メモリを持参すること					
教科書					
教科書なし 適宜プリント配付					
参考書					
なし					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 情報リテラシー：情報モラル、知的財産権、出典・引用・参照、情報セキュリティ
2回	文書作成ソフトウェア：Word① USBの使い方、データコピー、基本操作（均等割付け、フォント、ルビ・オフセット）
3回	文書作成ソフトウェア：Word② 入力練習（書式：段落→固定値）、ページ設定、オプション操作
4回	文書作成ソフトウェア：Word③ ビジネス文書（右揃え、中央揃え、文字修飾）、ヘッダー/フッター
5回	文書作成ソフトウェア：Word④ 罫線の操作、罫線処理（セルの結合、線種、表ツール利用）
6回	文書作成ソフトウェア：Word⑤ 罫線の応用（セル内の上下中央揃え、テーブルデザイン）
7回	文書作成ソフトウェア：Word⑥ <文書デザイン> 図形描画、ワードアート、図の編集、ストック画像、オンライン画像、3Dモデル
8回	表計算ソフトウェア：Excel① （基本操作Ⅰ）シートコピー、行列の挿入・削除、行列の表示・非表示など
9回	表計算ソフトウェア：Excel② （基本操作Ⅱ）表作成、四則演算、相対参照と絶対参照、達成率と構成比の求め方
10回	表計算ソフトウェア：Excel③ （基本関数）SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT関数など
11回	表計算ソフトウェア：Excel④ グラフ作成、表データとグラフの印刷設定およびヘッダー・フッター
12回	文書作成ソフト&表計算ソフトウェア（まとめ） Excelデータを活用し、Word文書を完成させる、スクリーンショット
13回	プレゼンテーションソフトウェア：PowerPoint① スライド（入力・デザイン）、アイコンの挿入、3Dモデル、スライドショー
14回	プレゼンテーションソフトウェア：PowerPoint② アニメーション・画面切り替え効果、表・グラフ作成、SmartArt、印刷形式について
15回	プレゼンテーションソフトウェア：PowerPoint③ 課題作成

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
ファシリテーション			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
関わりあいを通じて個人がよりよく成長したり、協働作業や民主的な話し合いにより課題を解決することをめざします。 講義では「実践編」として会議やミーティング等の場での司会進行や、設定されたテーマに沿ったグループワークの企画運営など、多様な人々の相互理解と合意形成をサポートする方法を実践的に学んでいきます。本講義はアクティブラーニング型の講義を中心に、適宜グループワークを実施します。					
(学習目標)					
講義を通じて以下の力をつけることをめざします。 ① ファシリテーションを進める上で大切な考え方や視点を理解する ② ファシリテーターとしての心構えやスキルの実践的な定着を図る					
評価方法・基準					
出席状況、授業態度、演習成果等を総合的に評価する					
履修上の注意点					
講義への積極的な参加を求めます					
教科書					
講義内で適宜プリント等を配布					
参考書					
講義内で随時紹介する					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション：受講ルールや評価方法等の説明
2回	ファシリテーターの役割：求められる力と心構え
3回	実践演習）対話デザイン：子育て支援ワークショップ（1） 課題の発掘とテーマ設定
4回	実践演習）対話デザイン：子育て支援ワークショップ（2） 企画書づくり、役割分担
5回	実践演習）対話デザイン：子育て支援ワークショップ（3） グループワーク及び発表準備
6回	実践演習）対話デザイン：子育て支援ワークショップ（4） グループワーク及び発表リハーサル
7回	成果発表（1）
8回	成果発表（2）
9回	実践演習）まちづくりと課題解決ワークショップ（1） 課題の発掘とテーマ設定
10回	実践演習）まちづくりと課題解決ワークショップ（2） 企画書づくり、役割分担
11回	実践演習）まちづくりと課題解決ワークショップ（3） グループワーク及び発表準備
12回	実践演習）まちづくりと課題解決ワークショップ（4） グループワーク及び発表リハーサル
13回	成果発表（1）
14回	成果発表（2）
15回	講評授業：まとめと振り返り

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
児童文学		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
児童文学の一ジャンルである絵本は、保育の現場で重要な役割をもつ文化財です。乳幼児期にすぐれた絵本と出会うことは、長い人生の土台作りとして大きな意味をもっているからです。したがって、保育者になる前に「絵本」について学ぶことは、質の高い保育活動を行う上で必要なことと考えます。 本講義では、絵本についての理解を深めることを目的として、絵本表現の特徴、その発展の歴史、また、幼い子どもたちにとっての絵本の意義や役割について、さらに、子どもたちの心に届く読み聞かせ方、その基本について学んでいきたいと考えます。					
(学習目標)					
① 「絵本とは何か」その理解を深めること。 ② 子どもにとっての絵本の魅力について考える力を養うこと。 ③ 絵本について深く知ること、保育の現場で、絵本の力を充分に生かせるようにすること。					
評価方法・基準					
提出プリント (50%) 授業参加・授業姿勢 (50%)					
履修上の注意点					
将来、保育士につくことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。 図書室などを活用し、多くの絵本に触れて欲しい。					
教科書					
特になし。プリントを作成して配布する。					
参考書					
授業のなかで適宜紹介する。					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス 一講義の流れと評価対象となる課題についての説明など
2回	絵本表現の特徴とその魅力
3回	絵本表現の発展① イギリスからアメリカへ
4回	アメリカ絵本② (バージニア・リー・バートン他)
5回	アメリカ絵本③ (レオ・レオニ、モーリスセンダック他)
6回	アメリカ絵本④ (エリック・カール他)
7回	日本の絵本の発展①—戦後～1970 年代
8回	日本の絵本の発展②—1970 年代～2000 年代
9回	0、1、2才の絵本①
10回	0、1、2才の絵本②
11回	物語絵本—子どもにとって面白い絵本ってどんな絵本？ ①昔話絵本
12回	物語絵本—子どもにとって面白い絵本ってどんな絵本？ ②創作物語絵本
13回	心の豊かな育ちと物語絵本①
14回	心の豊かな育ちと物語絵本②
15回	課題の作成

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
リトミック		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
みなさんは「リトミックって何ですか？」と聞かれたらどう答えるだろうか？ この授業では、みなさん自身が楽しくリトミックを経験しながら、現場でのピアノ演奏法を具体的に学び、音楽に合わせて動くことの心地よさを体感する。 2、3、4拍子の活動、基礎リズムを手拍子したりステップしたりして、音楽と身体運動と精神活動の融合を図るリトミック教育を学ぶ。					
(学習目標)					
1. 子どもの年齢に合わせたリトミックの指導方法がわかる。 2. リズム・拍子を理解し、動くことができる。 3. リトミックとは何かを具体的に説明できる。					
評価方法・基準					
・ 実技テスト 90% ピアノ演奏、リズム、理論 ・ 出席 10%					
履修上の注意点					
・ 身体を動かす授業である。動きやすい服装で、底の薄いシューズを用意して出席すること ・ スカート、ブーツ、ヒールの高い靴は禁止					
教科書					
参考書					
「1～5歳のかんたんリトミック」 (ナツメ社) 「リトミックってなあに」 (ドレミ楽譜出版社)					

	授 業 内 容
1回	①リトミックについて ②楽しいリトミックの経験 (1) 授業内容の紹介をし、リトミックの役割を具体的に学びます。実際に身体を動かし、リトミックの経験をします。
2回	①楽しいリトミックの経験 (2) ②強弱・テンポ・空間・アクセント ③基礎的な動き④2拍子基礎リズム リトミックを表現するのに大切な、時間・空間・エネルギーを身体を使って比較しながら学びます。
3回	3歳のリトミック指導 3歳児の発達と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
4回	①楽しいリトミックの経験 (3) ②2拍子基礎リズム③基礎的な動き④拍子リトミックでの歩行・走り方、2拍子基礎リズムを色々な方法で練習。
5回	4歳のリトミック指導 4歳児の発達と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
6回	リズム演奏法① 現場で子どもたちにリトミックを指導する際のピアノ演奏法を学びます。前回の授業で指定した曲を練習しておくこと。
7回	5歳のリトミック指導 5歳児の発達と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
8回	①楽しいリトミックの経験 (4) ②2拍子基礎リズム③拍子 2拍子基礎リズムを動けるように復習しておくこと。2・3・4拍子を色々な方法で学びます。
9回	2歳のリトミック指導 2歳児の発達と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
10回	リズム演奏法②【試験公示案内】 現場で子どもたちにリトミックを指導する際のピアノ演奏法を学びます。前回の授業で指定した曲を練習しておくこと。
11回	1歳のリトミック指導 1歳児の発達と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
12回	①楽しいリトミックの経験 (5) ②リズム創作③リズムフレーズ④ソルフェージュ 2拍子のリズムを組み合わせてリズム創作をしたり、リズムフレーズにしていける。
13回	①2拍子基礎リズム②リズム創作したものを動けるようにする。 試験公示の内容に従って練習しておくこと。
14回	リズム演奏法③ 現場で子どもたちにリトミックを指導する際のピアノ演奏法を学びます。試験公示で指定した曲を練習しておくこと。
15回	実技テスト

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育所保育指針		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
・「保育所保育指針」における保育の基本理念と原則を理解する。 ・保育のねらいと内容の整合性を学び、具体的な実践への展開方法を習得する。 ・グループワークを通じ、保育実践（ベープサート等）の構成・発表を行い、指導技術を磨く。					
(学習目標)					
・保育所保育指針の基本・概要を理解する。 ・保育所保育指針・要領に基づいた実践を説明できる。					
評価方法・基準					
出席・学習意欲・態度50% 発表内容・成果50%					
履修上の注意点					
アクティブラーニングにより、主体的な学びを通して理解を深めます。					
教科書					
保育所保育指針					
参考書					
保育所保育指針ハンドブック（学研）					

授 業 内 容	
1回	保育所保育指針の基本・概要（総則）
2回	改定の背景、方向性
3回	5 領域「健康」 0歳～1歳、1歳～3歳、3歳以上の比較
4回	グループワーク
5回	5 領域「人間関係」 0歳～1歳、1歳～3歳、3歳以上の比較
6回	グループワーク
7回	5 領域「環境」 0歳～1歳、1歳～3歳、3歳以上の比較
8回	グループワーク
9回	5 領域「言葉」 0歳～1歳、1歳～3歳、3歳以上の比較
10回	グループワーク
11回	5 領域「表現」 0歳～1歳、1歳～3歳、3歳以上の比較
12回	グループワーク
13回	グループワーク
14回	発表
15回	まとめ

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
こどものあそび			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) ※決まり次第別途周知いたします。					
(学習目標)					
評価方法・基準					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	
2回	
3回	
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育ICT			単位		
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 保育現場における ICT(情報通信技術)の活用について現状、今後の方向性を理解する。 本科目では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介に加えて、学生自身が各種ICT機器、環境を活用することを基本とする。					
(学習目標) ・保育現場でのICT活用の知識・利用 ・ICTツールの知識・利用					
評価方法・基準					
出席・学習意欲・態度50% 発表内容・成果50%					
履修上の注意点					
・受講人数により内容を一部変更する可能性があります。 ・後半はパソコンを使ってデジタルドキュメンテーションを各自で作成してICT教育への理解を深めます。					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	保育ICTとは（概論）
2回	ICT・DXの基礎知識
3回	ICTツール（コドモンなど）の知識
4回	ICTツール（コドモンなど）の活用
5回	AI（ChatGPT・Geminiなど）の知識
6回	AI（ChatGPT・Geminiなど）の活用
7回	ICT教育（ディスプレイ表示・googleレンズなど）の知識
8回	ICT教育（ディスプレイ表示・googleレンズなど）の活用
9回	デジタルドキュメンテーションの知識
10回	デジタルドキュメンテーション作成の基礎スキル
11回	デジタルドキュメンテーション作成の基礎スキル
12回	デジタルドキュメンテーション作成
13回	#
14回	発表
15回	まとめ

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
特別支援教育		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) ・特別支援教育の理念と制度 ・子どもの理解と支援 ・支援の具体的方法 ・保護者や関係期間との連携					
(学習目標) ・特殊教育から特別支援教育への歴史的変遷や現代の制度を理解する。 ・発達障害、知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害などの特性やそれに伴う生活上の困難を学ぶ。 ・個々の発達に応じた援助、環境構成のあり方を理解する。 ・保護者の心情の理解、関係機関の機能を理解する。					
評価方法・基準					
・授業への姿勢、授業内活動、リアクションシート、レポート提出など					
履修上の注意点					
・保育者として、当事者意識をもって考える姿勢で参加してほしい。					
教科書					
使用しません。					
参考書					
はじめての特別支援教育―教職を目指す大学生のために 改訂版 (有斐閣アルマ) ISBN-13 : 978-4641220386					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション
2回	1 特別支援教育の理念と制度
3回	↓
4回	2 子どもの理解と支援 LD、ADHD
5回	ASD
6回	言語障害、情緒障害
7回	知的障害
8回	肢体不自由、病弱、身体虚弱、重複
9回	視覚障害、聴覚障害
10回	3 個別の指導計画と個別の支援計画
11回	↓
12回	4 保護者や関係機関の連携
13回	↓
14回	↓
15回	振り返り